

令和元年度愛知県支部2月発表会のご報告

担当幹事 鈴木、中村

去る2月8日、公益社団法人日本技術士会中部本部愛知県支部2月発表会が、『ベテラン技術士等が若手・中堅技術士の背中を押す～若手・中堅技術士に「技術の専門家として活動し役に立つこと」を促す～』をテーマとして開催されました。参加者は36名、16名が愛知県支部の行事に初めてないしは久しぶりに参加された方々でありました。

2月発表会では、山之上誠・技術士(建設)、荻田丈士・中部大学教授、鈴木朗・技術士(建設)の3名が発表されました。発表タイトルと発表概要は以下の通りであります。

<山之上誠・技術士(建設)>

『大井川源流部の課題は何』

- ・リニア中央新幹線建設工事、環境保全のために何が湯煎課題なのか認識を新たにする。過去の国家プロジェクト・大井川発電事業における環境問題(開発優先で粗雑で危険極まりない道路環境を容認)を踏まえて、建設主体・国・県・市・土地所有者が今回プロジェクトをどう受け止めるのか。最優先されるべき方策(想定されるリスク=人災という災害を皆無にする)の合意を形成した上で、工事を進めることが重要。

<荻田丈士・中部大学教授>

『ロケットエンジン・ジェットエンジンの研究開発から学んだこと』

- ・科学技術庁航空宇宙技術研究所(現 JAXA)時代以来、ロケットエンジンやスクラムジェットエンジンなどの研究開発に従事。学んだこと・反省したことは次。①基本は、色々なことをしっかり勉強しておく。②その中で、おかしいと思ったことは一度考えてみる大切。③教科書に書いてあることが正しいとは限らない。④固定観念、直感的な理解は一度捨て、論理的に考えてみるが大事。⑤そのときに広い視野・知識が必要。



会場の光景



山之上技術士の発表



荻田教授の発表

<鈴木朗・技術士(建設)>

『中小会社経営者の期待に応える それが技術士の仕事－経営＝安全「3現主義の安全指導」で経営者の悩みを解消－』

・技術士として役に立つ仕事をするにはどうすればいいのか。若手・中堅技術士時代から技術士本来の仕事をする準備に入ること、技術士会の活動に参加することが重要。技術士としての蓄えができ、日々の仕事の智恵が身につくし、将来の仕事の進め方を予習することもできる。技術士としての活動と企業内及び独立技術士の仕事がどう結びついたので、その細部を具体的に紹介。



鈴木技術士の発表

3名の発表者が各々、持ち味を生かして発表されたことにより、参加者の役に立つ発表会となりました。アンケートで「発表内容」に関して、「4-1」「4-2」「4-3」いずれも好評価が圧倒的に多数を占めたことが何よりの証明であります。特に今回のアンケートでは、初回・数回参加者が中身の濃い記述をしていることが特徴的であり、高く評価させていただきます。今回の発表会では、これまであまり参加されていなかった参加者16名の中に、一般参加者2名、会員外参加者4名、修習技術者4名がおられたのが特筆すべきことであります。中堅・若手技術士等が、ベテラン技術士等の過去の経験（失敗・成功事例）を学び、自らの実務等に役立ててほしい、というのがこの発表会の狙いでありましたが、参加者数、アンケート内容からも、発表会の所期の目的は達成されました。

今回の発表会では、問題点が2つありました。

- 1) アンケート評価「よくなかった」の理由が記入されていなかったこと
- 2) アンケートの回答に次のコメントがあったこと

『そんなことよりも、平均年齢が高すぎる。若い人にプレゼンのチャンスを与えてほしい』

上記の問題点1)2)については、次のように改善したいと思います。

- 1) については、アンケート用紙に以下を明記することにしたいと思います。
 - ・「エ。」を回答された方は、その理由を具体的に、上欄にお書き下さるようお願い致します。「よくなかった」とご指摘下さった事項等は、今後の活動に活かし改善していきたいと思っております。
- 2) については、もっとものご指摘であり、重く受け留め次のように進めていきたいと思っております。
 - ・今後の愛知県支部の活動（企画研修委員会）においては、「若い人にプレゼンの機会を与える」ことを本格的に検討していく。是非とも実現して、参加者の若返りを図っていく。

文責：鈴木 朗